



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和7年度

# 学校の窓 6月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

## 「人間みな兄弟」

校長 堀内 祐子

5月20・21日の二日間、5年生の子どもたちと「倉渕移動教室」に行ってきました。板橋区では長らく「榛名移動教室」が実施されていましたが、昨年度をもって「榛名学園」が閉園になりました。そこで、本年度からは群馬県高崎市倉渕町にある「はまゆう山荘」を宿泊地として実施されることとなりました。

両日とも5月とは思えない暑さの中でしたが、バス酔い以外に具合の悪くなる子もおらず元気に過ごすことができました。グリーン牧場で動物と触れ合ったあとは、榛名山の頂上から素晴らしい自然を満喫しました。夜のキャンプファイヤーでは合唱やゲームで盛り上がりました。また、榛名山から降りてきた「火の神様」からは、「やさしさの火」「全力の火」「活力の火」「個性の火」を授けてもらいました。

二日目の群馬県立自然史博物館では、自由行動で自分の興味のある展示物を中心に見学しました。

私は何度もこの群馬県立自然史博物館を訪れていますが、毎回、いちばん時間をかけて鑑賞するのは「自然界におけるヒト」という展示です。ここでは、環境に適応しながら「進化」「退化」してきた「ヒトの物語」が順路に沿って展示されています。

動物は環境に合わせて自分の体を変化させる「適応」をしながら進化をしていきます。その適応には、「ベルクマンの法則」「アレンの法則」があります。

「ベルクマンの法則」とは寒いところに住む動物は、暖かいところに住む動物より、一般に体が大きい傾向にあるというものです。やかんのお湯が、茶碗のお湯より冷めにくいのも同じで、寒いところに住む動物も、体を大きくすることで、体温を保ちやすくしているのだそうです。

「アレンの法則」とは、寒いところに住む動物は、暖かいところに住む動物より、一般に耳や足などのように、とび出ている部分が少ない傾向にあるというものです。寒いところの動物は、できるだけ体の表面面積を減らして体温を保っていると考えられるそうです。

展示ではこの二つの法則についてクマとキツネのはく製で説明されていましたが、これらの法則は「ヒト」にも当てはまるようで、ヒトはアフリカを起源として、そこから、環境に適応しながら、ヨーロッパや中近東では「コーカソイド」、アジアや南米では「モンゴロイド」などのように、様々な人種に拡散していったと説明されています。

今回、これらの展示を見ながら、以前テレビの特集で見た「ミトコンドリア・イブ」を思い出しました。「ミトコンドリア・イブ」とは、約16万年前のアフリカに住んでいた一人の女性の細胞の中にあつたミトコンドリアDNA（母親からしか遺伝しないそうです。）が子どもからその子どもへ、更にその子どもへと伝えられていき、彼女のミトコンドリアDNAは、ついに全ての人類に広がった、という説です。この説によると、現在の地球上に住んでいる全てのヒトのミトコンドリアDNAは、彼女一人のミトコンドリアDNAに由来することになります。

そして、「ミトコンドリア・イブ」から更に連想したのは、私が子どもの頃にテレビで流れていたウイスキーのコマーシャルです。私の記憶では、そのコマーシャルは、特に歌詞はなく、男性のスキヤットのあとに「人間みな兄弟」とナレーションが入るものでした。

もし、地球上の全ての人間が、人種や民族を問わず、兄弟のように愛し合い、思い合うことができれば、地球はもっともっと平和で幸せな世界になるのだろうかと、ほんの少しですが、世界平和について想いを馳せた移動教室となりました。

### よんちゃんタイム

本年度も6月から、「総合的な学習の時間」で「よんちゃんタイム」が始まります。この学習は教科・学年の枠を越えて自分の興味関心に沿って進める探究学習です。本年度は本校のホームページを見て関心をもってください、跡見学園女子大学の新井 雅教授がお手伝いをしてくださることになりました。心理学がご専門の新井先生には「心の健康」について、子どもたちの学習の支援をしていただきます。例えば、「悩んでいるけど、相談する勇気がない、上手に相談するコツってある？」などこれから思春期に入る子どもたちにとっても有効な学習になるのではないかと期待しています。